

桜花爛漫の折、校庭に咲く桜の花びらに雨滴がふれ、美しく輝いています。万物が躍動するこの佳き日に、三豊市副市長 様、P T A会長 様、そして多くの保護者の皆様のご臨席を賜り、ここに令和八年度 香川県立笠田高等学校 入学式を挙げてまいりますことは、私ども教職員一同にとりまして、この上ない慶びであり、心より感謝申し上げます。

ただいま、入学を許可しました九十一名の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。在校生、教職員一同、心より歓迎いたします。

本校は、昭和三年に香川県立三豊農業学校として設立され、昭和二十四年に香川県立笠田高等学校と改称し今年で九十九年目、令和十年度には創立百周年を迎えます。農業と家庭に関するスペシャリストを養成する専門高校として、地域活動を中心とした専門教育を行っており、本校を卒業された多くの先輩たちは各方面ですばらしい活躍をされています。

初代校長 中馬 成介 先生は、立派な専門教育を行うことはもちろんであるけれども、調和のとれた人間性を高めていく教育が重要であると考え、校訓「至誠 慈愛 勤労 剛健 自律」の中でも、特に「至誠」を大切にしてきました。至誠とは最大限のまごころを尽くすことを意味しています。

晴れてこの伝統ある笠田高校の生徒となった皆さんに、高校生活のスタートにあたり、この「至誠」をもとに私が期待する三つのことについてお話しします。

一つ目は、対話を大切にすることです。高校では多様な人々とのかかわりを通して学んでいきます。自分の当たり前と違う価値観に触れた時、戸惑うことがあるかもしれませんが、この違いこそが皆さんの視野を広げ、新しい気づきをもたらします。違いを受け入れ、自分の主張を正しく伝えることの積み重ねが、真の対話です。その第一歩にあいさつがあります。「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」だけでなく、「ありがとうございます」「ごめんなさい」を適切な場面で言えることも大切です。

二つ目は、学びを社会につなげることです。皆さんが身につけた知識や技術は、テストや検定のためだけに使うのではなく、現実起きている問題と結び付けたり、誰かの役に立つ使い方を考えることでさらに深まります。これまでは、学校や先生、家族に「してもらおう」ことが多かったと思いますが、高校では自分が周囲に対して何ができるかを自らに問うことも大切になります。「自分の役割ではない」、「誰かがやってくれるだろう」という考えからは卒業してください。これこそが、学んだことを生かし集団の中で役割を果たす、ということにつながります。

三つ目は、感謝をもって学ぶことです。学べる場所や時間があること、教えてくれる先生がいること、学びに必要な情報に触れることは、どれも当たり前のことではありません。学びを支えてくれている家族、互いに学ばせてもらっている仲間、自分ためを思って教えてくれている先生、などすべてのことに「学べることのありがたさ」を感じながら、高校生活を過ごして欲しいと思います。

高校時代の学びは、教科の勉強だけではありません。部活動や生徒会、農業クラブ活動、家庭クラブ活動、学校行事、ボランティア。本校は皆さんにさまざまな学びの場を準備しています。積極的に取り組んでください。

最後に、本日も列席の保護者の皆様、お子様のご入学、誠におめでとうございます。心よりお祝いを申し上げます。生徒たちはこれからの日本、そして郷土香川、さらには地元三豊・観音寺を担っていく大切な人材として、たくましく成長していかなければなりません。そのために、家庭と学校が心をつ

にして、生徒を見守っていく必要があると考えます。私ども教職員一同、精いっぱい努めてまいりますので、本校の教育活動にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

新入生の皆さんが、今日の感激を胸に、心身ともに健康で明るく元気に学校生活を送られること、また、本日ご臨席のご来賓ならびに保護者の皆さま方の益々のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、式辞といたします。

令和八年四月七日

香川県立笠田高等学校校長 山田 知子